

令和4年度全国学力・学習状況調査の調査結果について

令和5年3月1日
足立区教育委員会
学力定着推進課

文部科学省が令和4年4月19日（火）に実施した「令和4年度全国学力・学習状況調査」の調査結果について、以下のとおりお知らせします。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年（原則として全児童生徒）
足立区実施校数：小学校68校、中学校35校（全校実施）

足立区調査人数 (単位：人)

科目 対象学年	国語	算数・数学	理科（※）	児童生徒 質問紙調査
小学6年生	4,720	4,721	4,724	4,722
中学3年生	4,081	4,080	4,079	4,082

※ 理科は3年に1度の実施。前回調査は4年前の平成30年度。
(令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により中止のため)

3 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

(イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※ 調査問題では、上記（ア）と（イ）を一体的に出題。

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

(2) 学校に対する調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

4 「教科に関する調査」の概要

(1) 小学校 各教科の平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
足立区 ※	67.1	65.0	63.5
東京都（公立）※	69	67	65
全国（公立）	65.6	63.2	63.3

(2) 中学校 各教科の平均正答率 (%)

	国語	数学	理科
足立区 ※	65.7	49.3	47.1
東京都（公立）※	70	54	51
全国（公立）	69.0	51.4	49.3

※ 平成29年度以後、文部科学省による報道発表では、各地方自治体の平均正答率は整数で公表されることとなりました。

足立区においては、より緻密に全国平均値と比較するため、上記の表では足立区の受検児童・生徒の平均正答数をもとに平均正答率を小数点1位（端数は四捨五入）まで計算して公表します。

なお、東京都（公立）の各教科の平均正答率は、小数点以下が公表されていないため、整数のまま参考として掲載しています。

<用語の解説>

平均正答数	児童生徒の正答数の平均
平均正答率	平均正答数を百分率で表示 ○ 国語、算数・数学、理科ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を問題数で割った値の百分率（概数） ○ 学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、問題ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率
全国（公立）	全国の公立学校
東京都（公立）	東京都の公立学校
全国平均値	全国（公立）における平均正答率
東京都平均値	東京都（公立）における平均正答率

5 教科ごとの調査結果及び正答状況から見た現状と課題

小学校6年生【国語】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		14	67.1	69	65.6
学習 指導 要領 の 内容	知識 及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	71.3	71.4	69.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	78.0	75.5	77.9
	思考力 判断力 表現力等	A 話すこと・聞くこと	68.7	69.1	66.2
		B 書くこと	49.8	51.3	48.5
		C 読むこと	67.1	72.1	66.6
評価の観点	知識・技能	6	72.4	72.0	70.5
	思考・判断・表現	8	63.2	66.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度	0			

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

調査から見た課題

(1) 正答状況

- ア 全体では、区の平均正答率が全国値を1.5ポイント上回った。
- イ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を1.9ポイント、「思考・判断・表現」では、全国値を1.2ポイントそれぞれ上回った。
- ウ 「知識・技能」より「思考・判断・表現」の方が上回ったポイントが小さい。

(2) 「書くこと」について

- ア 「思考力、判断力、表現力等」では、「書くこと」の領域が、他の領域と比較して、平均正答率が49.8%と低い。
- イ 『文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけて書く』問題の平均正答率が38.4%（全国値は37.7%）と全設問中で最も低く、無回答率も23.1%と全国値（14.5%）を8.6ポイント上回るほど高い。

(3) 見えてきた課題

相手に分かりやすく伝わるように、伝えたいことを明確にし、首尾一貫した展開となるよう文章を組み立てる力を育成することが必要である。

授業改善のポイント

- ① 3・4年生では「書こうとしたことの明確さ」、5・6年生では「文章全体の構成や展開の明確さ」を意識するなど、長期的な視点で継続的に指導する。
- ② 児童が互いの書いた文章を読み合う機会や、具体的に感想や意見を述べ合う機会を意図的・計画的に設定することが効果的である。

小学校6年生【算数】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		16	65.0	67	63.2
学習指導要領の 領域	A 数と計算	6	71.2	72.1	69.8
	B 図形	4	66.1	68.6	64.0
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	54.4	57.6	51.3
	D データの活用	3	69.3	72.4	68.7
評価の観点	知識・技能	9	70.5	72.4	68.2
	思考・判断・表現	7	58.0	60.5	56.7
	主体的に学習に取り組む態度	0			

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

調査から見た課題

(1) 正答状況

- ア 全体では、区の平均正答率が全国値を1.8ポイント上回った。
- イ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を2.3ポイント、「思考・判断・表現」では、全国値を1.3ポイントそれぞれ上回った。
- ウ 「知識・技能」が「思考・判断・表現」より上回ったポイントが高い。

(2) 「変化と関係」について

- ア 他の領域と比較して、「変化と関係」の領域が平均正答率54.4%と低い。
- イ 『数量が変わっても割合は変わらないことを理解している』問題の平均正答率が24.1%（全国値は21.4%）と全設問中で最も低い。

(3) 見えてきた課題

日常の事象における数量の関係に着目し、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係との比べ方を考察し、それを日常に生かす力が必要である。

授業改善のポイント

- ① 飲み物の量に対する果汁の量の割合が、飲み物の濃さを表していることを、日常の具体的な場面に対応させながら理解できるよう、飲み物を分けても、飲み物の濃さは変わらないという生活経験を想起させる。
- ② 生活経験を基にした判断と、飲み物の量に対する果汁の量の割合を計算で求めた結果を関連付けて考えることができるような数学的活動に取り組みさせる。

小学校 6 年生【理科】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)			
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)	
全体		17	63.5	65	63.3	
学習指導 要領の 区分・領域	A 区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	52.1	53.4	51.6
		「粒子」を柱とする領域	5	60.5	62.4	60.4
	B 区分	「生命」を柱とする領域	5	75.1	77.4	75.0
		「地球」を柱とする領域	5	64.5	67.7	64.6
評価の観点	知識・技能		6	62.2	63.6	62.5
	思考・判断・表現		11	64.4	66.5	63.7
	主体的に学習に取り組む態度		0			

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

調査から見た課題

(1) 正答状況

- ア 全体では、区の平均正答率が全国値を 0.2 ポイント上回った。
- イ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を 0.3 ポイント下回った。
- ウ 「思考・判断・表現」では、平均正答率が全国値を 0.7 ポイント上回った。

(2) 『エネルギー』を柱とする領域について

- ア 他の領域と比較して『エネルギー』を柱とする領域が平均正答率 52.1% と低い。
- イ 「知識及び技能」では、『光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ』問題の平均正答率が 25.8% (全国値は 27.8%) と全設問中で最も低い。

(3) 見えてきた課題

光の性質についての知識や身に付けた知識を、実際の自然の事物や現象と関連付けて考える力を育成することが必要である。

授業改善のポイント

- ① 授業では、問題解決を中心とした学習を進めることで、主体的な学習の充実を図る。
- ② 観察や実験を丁寧に行い、実感を伴った理解を通して知識の確実な定着につなげていく。
- ③ 習得した知識を問題解決の場面で活用して、日常生活との関わりの中で捉え直す場面を設定し、知識を再構築するなど多角的に整理する活動を取り入れる。

中学校3年生【国語】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		14	65.7	70	69.0
学習 指導 要領 の 内容	知識 及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	68.0	73.6	72.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	43.4	43.8	46.5
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	66.8	70.9	70.2
	思考力 判断力 表現力等	A 話すこと・聞くこと	61.8	65.7	63.9
		B 書くこと	43.4	43.8	46.5
		C 読むこと	65.7	70.8	67.9
評価の観点	知識・技能	10	65.2	69.8	69.0
	思考・判断・表現	6	60.0	63.8	62.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

調査から見た課題

(1) 正答状況

- ア 全体では、区の平均正答率が全国値を3.3ポイント下回った。
- イ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を3.8ポイント、「思考・判断・表現」では、全国値を2.3ポイントそれぞれ下回った。
- ウ 「知識・技能」より「思考・判断・表現」の方が下回ったポイントが小さい。

(2) 「書くこと」について

- ア 「思考力、判断力、表現力等」では、「書くこと」の領域が、他の領域と比較して、平均正答率が43.4%と低い。
- イ 『自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く』問題の平均正答率が43.4%（全国値は46.5%）と低く、無回答率も11.7%と全国値（9.0%）を2.7ポイント上回るほど高い。

(3) 見えてきた課題

自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認することで、自信をもって自分の考えが伝わる文章を書くことができたという学習経験が必要である。

授業改善のポイント

- ① 生徒が自分の考えを文章にする際、教師は、根拠となる複数の事例や専門的な立場からの知見を、生徒が引用して伝え合うような授業を計画する。
- ② 与えられた図表やグラフを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するような指導を行う。
- ③ 1年生では、特に根拠を明確にすることが求められているので、上記のような授業を意図的・計画的に設定し、充実させていく。

中学校3年生【数学】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		14	49.3	54	51.4
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	53.5	59.5	57.4
	B 図形	3	42.1	47.6	43.6
	C 関数	3	42.0	47.1	43.6
	D データの活用	3	56.5	59.5	57.1
評価の観点	知識・技能	9	57.3	62.4	59.9
	思考・判断・表現	5	34.9	39.7	36.2
	主体的に学習に取り組む態度	0			

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

調査から見た課題

(1) 正答状況

- ア 全体では、区の平均正答率が全国値を2.1ポイント下回った。
- イ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を2.6ポイント、「思考・判断・表現」では、全国値を1.3ポイント下回った。
- ウ 「知識・技能」が「思考・判断・表現」より下回ったポイントが高い。

(2) 「関数」について

- ア 他の領域と比較して、「関数」の領域が平均正答率42.0%と低い。
- イ 『事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる』問題の平均正答率が36.7%（全国値は38.4%）と「関数」の領域の中で最も低い。

(3) 見えてきた課題

2つの数量の関係を表やグラフで表し、その関係を比例とみなすことで、2つの数量の変化や対応の様子に着目して、未知の状況でも結果を予測して考える力が必要である。

授業改善のポイント

- ① 水を熱した時間と水温の関係を調べる際、実験を基にデータを座標平面上に表し、それらの点がほぼ一直線上に並ぶことに着目させ、一定に加熱するなど理想化したり、熱した時間だけで水温が決まるなどと事象を単純化したりすることによって、2つの数量の関係を一次関数として捉えさせる。
- ② 実際に式に表し、それを基に時間と水温の変化の様子を考察して、説明させることで、未知の状況でも結果を予測して考えられるようにする。

中学校 3 年生【理科】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		21	47.1	51	49.3
学習指導要領の 領域	「エネルギー」を柱とする領域	6	39.8	42.8	41.9
	「粒子」を柱とする領域	5	48.8	51.8	50.9
	「生命」を柱とする領域	5	55.6	60.1	57.9
	「地球」を柱とする領域	6	42.1	44.9	44.3
評価の観点	知識・技能	7	44.2	46.9	46.1
	思考・判断・表現	14	48.5	52.3	51.0
	主体的に学習に取り組む態度	0			

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

調査から見た課題

(1) 正答状況

- ア 全体では、区の平均正答率が全国値を2.2ポイント下回った。
- イ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を1.9ポイント、「思考・判断・表現」では、平均正答率が全国値を2.5ポイント下回った。
- ウ 「知識・技能」より「思考・判断・表現」の方が下回ったポイントが大きい。

(2) 『エネルギー』を柱とする領域について

- ア 他の領域と比較して『エネルギー』を柱とする領域が平均正答率39.8%と低い。
- イ 「思考力・判断力・表現力等」では、『考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する』問題の正答率が37.7%（全国値は43.3%）と低く、無回答率も38.0%（全国値は29.4%）と、全国値を8.6ポイント上回るほど高い。

(3) 見えてきた課題

考察の妥当性を高めるために、測定値の設定方法について、測定できる範囲と刻み幅を調整するなど、実験の計画や方法を検討して改善できる力を育成することが必要である。

授業改善のポイント

- ① 実験結果の処理について振り返る際に、測定する間隔や範囲など、改善の視点を明確にする。
- ② 実験の計画や方法を検討して改善する学習活動を充実させる。
- ③ 考察の過程で、考えの根拠や学んだことを記述する機会を十分に確保し、自分の考えをまとめる力を高めていく。